

平成 30 年度（2018 年度）

東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻
博士課程前期 2 年の課程 推薦入学特別選抜試験

小論文試験

注意事項

- 開始の合図があるまで表紙をめくらないで下さい。
- 「問題用紙」が表紙を除いて 1 枚, 「別添資料」が 10 枚, 「答案用紙」が 8 枚あります。
- 「答案用紙」は 8 枚のうち 4 枚を提出して下さい。提出する全ての「答案用紙」に受験番号と通し番号を記入して下さい。
- 「問題用紙」と余った「答案用紙」は持ち帰ることができます。
- 「別添資料」は小論文試験終了後に回収します。持ち帰ることはできません。
- 口頭試問（面接）では, 小論文の内容を 5 分程度で発表してもらいます。その際, 提出した「答案用紙」を見ることはできませんが, 残りの「答案用紙」をメモとして持ち込んでも構いません。

問題

三春町は、福島県郡山市の東に隣接し、郡山駅から磐越東線で2駅12分、車で約20分の距離にある、小さな谷間に発達した町(2. 三春町の鳥瞰写真, 3. 三春町中心部の航空写真参照)である。征夷大將軍、坂上田村麻呂が奥州征伐の際、この地で馬揃えを行ったという伝承を持っている。白河から二本松に阿武隈山中を抜ける奥州裏街道(通称姫街道)と、いわきから会津に抜ける塩を運ぶための街道の交点に位置するため、宿場町として発達した。戦国時代に戦国大名である田村氏がここに三春城を築き、この時代に行われた町割りが、現在の三春町の中心市街地の街並みにつながっている(1. 三春町の概要参照)。なお田村氏三代目、田村清頭公の娘「愛姫(めぐひめ)」は仙台を築いた「伊達政宗公」の正室である。以来、三春は城主が入れ替わるものの、幕末まで城下町として繁栄する。

明治時代(4. 三春町中心部の明治38年当時の街並み参照)には養蚕が盛んに行われ、生糸の集散地として栄えた。また「東の三春、西の高知」といわれ、自由民権運動発祥の地であり、衆議院議長となった河野広中を輩出するなど、戦前までこの地方の政治経済の中心地として栄えた。

戦後、全ての地方小都市と同じく、大都市への人口流出、郊外店舗の進出等により、三春町も戦後3万人を数えた人口が、約1万9千人(昭和58年の「地域住宅計画」策定当時。現在はさらに減少して約1万7千人)へと減少し、中心商店街(5. 「地域住宅計画」策定当時の三春町中心市街地参照)も日本のどこにでもあるような町となり、衰退した。そこで三春町では、昭和58年に「地域住宅計画」を策定、平成2年3月に「うつくしい町をつくる三春町景観条例」を制定し、現在のような街並み(6. 現在の三春町中心市街地参照)を作り上げた。裏道は「手づくり郷土賞」を受賞するなど、内外から評価を受けている。

なお、町には樹齢千年を超える特別天然記念物「滝桜」(7. 三春滝桜参照)が中心市街地から6km程度離れた農村部にあり、年間30~50万人の観光客が訪れるが、開花時期の前後2週間に集中し、この時期以外は、ほとんど町を訪れる人はいない。

以上を勘案するとともに、別添資料を参考にして、以下の問いに答えよ。

問1 昭和58年「地域住宅計画」策定当時の三春町中心市街地における課題と、それに対してどのような都市計画的または建築的な対策が現在までに取られているかを推察せよ。

問2 三春町では昭和58年に策定された「地域住宅計画」に従って街並み整備を進めてきたが、昭和58年当時と、現在では社会情勢も変化し、街並み整備に求められる条件も変化している。「地域住宅計画」策定当時および現在の三春町中心市街地や建物をみて、あなた自身がこの地域に対して、現代的視点に基づき都市計画的または建築的な改善提案をするならば、どんなことが考えられるか。自由な視点、観点(例えば、計画的視点・環境的視点・防災的視点や、超高齢社会・生活の利便性等の居住環境改善・地域活性化などの観点)から発想し、その提案を行う理由と期待される効果について説明せよ。